

教育大綱とは、地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、その目標や施策の根本となる方針を定めるものです。

本市の**教育大綱**は、未来をひらく礎となる基本理念として平成27年度に磐田市・磐田市教育委員会が協議、策定し、令和7年度には前文を改正しています。この理念をもとに各教育施策を展開しています。



磐田市の教育は、教育者・東井義雄の著書『培其根』にある『根を養えば、樹は自ら育つ』を理念とした6つの「培う」を教育大綱に掲げ、以下の3点を推進します。

- 1 かけがえのない命を精一杯生き、ふるさとの先人たちが築きあげた磐田の大地に根を張り、多様な人々と共に生きる精神と伝統文化を未来へ継承し、生涯にわたり変化の激しい現代社会を生き抜く力を育成します。
- 2 学校・地域・家庭・事業者の連携・融合など、新時代の教育コミュニティを「共創」によって形成し、次代の社会をつくる学びの場を創造します。
- 3 「教育大綱」は、本市の未来をひらく礎となる基本理念であり、その進むべき方向性は“「磐田の教育」道しるべ」と、子どもたちの成長を育む“磐田市子ども憲章”に示されています。学校・地域・家庭・事業者への浸透を目指します。

向陽学府は、R8年4月から小中一体校になりました

向陽学府小中一体校の整備により、令和8年4月に新しく「向陽小学校」が開校し、向陽小学校・向陽中学校が一つの校舎となりました。これに伴い、大藤小学校・向笠小学校・岩田小学校は、令和8年3月末日をもって閉校を迎えました。



向陽学府小中一体校



大藤小学校・向笠小学校・岩田小学校の校旗

「多様性を尊重し合う教育」と「こどもの『育つ力』を信じる教育」

昭和の時代の教育者、東井義雄先生の著書に「培其根」があります。その著書の中に、「根を養えば、樹は自ら育つ。根の深さと広がり、樹の高さと広がりになる」など、先生の教育に対する思いや願いが綴られています。磐田市教育大綱は、全て「～を培う」と表現されており、この「培其根」の理念が込められています。一人の人間としての絶対的価値である「いのち」がまずあり、その一人の人間が前進し成長していくためには「誇り」（自己肯定感）を培う必要がある。さらに、「人と人とのつながり」の中で、「礼節」「敬愛」「感謝」を培い、最後には、自分の夢や希望に向かうというだけでなく、世のため人のために尽くすことが最高の幸せであるという意味で「こころざし」をおき、そんな思いに向かって生きる人間を育成していきたいという願いが込められています。「根っこをしっかり」と「養っていく」ためには、環境づくりが大切です。その環境づくりの中で私が大切であると感じていることは、一人一人が不安を感じることなく、安心して発言や行動をすることができるという「心理的安全性」です。この「心理的安全性」を基盤に、「一人一人の違いを認め合い、多様性を尊重し合う教育」「こどもの可能性、『育つ力』を信じる教育」を展開することで、「人と人とのつながり」がより深まるとともに、「探究的な学び」に代表されるこどもの「やってみたい、ワクワクする学び」が充実し、地域や社会の様々な「人、もの、こと」との出会いから多くのことを学んでいってほしいと願っています。



山本敏治 教育長

SNSやメッセージアプリの普及、AIやロボティクスの飛躍的な発達によりコミュニケーション手段が大きく変わり、人々のつながりが希薄になりがちな時代を迎えています。日々の暮らしにおいて、笑顔で、澄み渡る声でのあいさつや返事、会話ができれば、また一歩お互いの距離感が縮まり、さらなるつながりを感じられる素敵な関係を築けるのではないのでしょうか。いつでも、少しの勇気と意識を持ち、我々大人たちが率先して行動していきたいものです。



秋元 富敏

変わりゆく世の中において未知の課題に直面したとき、解決策を考え行動を起こす姿勢が未来を開きます。それはAIが出した答えを鵜呑みにするのではなく、それをどう生かすか考え、判断する能力です。子供たちの根を養う養分は、家族の愛であり、教師や友達との対話や共創の経験です。また、地域の方も第3の保護者として子供たちを見守り育てていくことにより、愛され必要とされているという実感は、目標達成へのパワーとなり失敗から立ち上がるエネルギーとなることでしょう。



鈴木 好美

全国的に不登校の児童生徒数は年々増加しており、2024年度には小中学校で過去最多の約35万人に達しました。磐田市では約500名の児童が不登校となっています。磐田市では不登校の子どもたちが「どこともつながっていない」状態をなくすことを目指し、「つながり・かかわりプラン」を策定しました。学校・家庭・地域が連携して支援を行うことで、子どもたちを支える仕組みを皆さんで築いていきましょう。



大橋 弘和

磐田市制20周年に合わせて「こども憲章」が改定されました。4つの心得が、子どもたちによって考え出され、子どもたちの想いを乗せて表現されています。その「ことば」と「想い」に応えられるよう身近にいる大人として、手本となりながら共に学び、共に歩んでいけるといいなと思っています。発行されたリーフレットは、こども目線かつゲーム感覚で楽しみながら、4つの心得について親しむことができるように工夫されています。



阿部 麻衣子

教育委員会の目標 「ふるさとを愛し 未来をひらく 心豊かな磐田市民」

方針1 「生きる力」の育成

「しなやかでたくましい磐田人」を育成するため、多様な他者と協働しながら、さまざまな社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り開く「生きる力」を育みます。

施策1 こどもの可能性を伸ばす園・学校づくりの推進

現在進めている主な事業

- 小中一貫教育・コミュニティ・スクールのさらなる推進
- 探究的な学びの充実 ●学校給食の地産地消の推進
- 磐田ここからラボの一環として、こどもの自由な学びを応援する事業
- 保幼小のさらなる連携促進

施策2 「個」に応じたきめ細かな支援・指導の充実

現在進めている主な事業

- 不登校支援プラン「つながり・かかわりプラン」をもとにした取組
- こどもへのきめ細かな支援(教育支援員・学校介助員の配置、外国人児童生徒支援の拡充、校内・校外教育支援センターの設置、スクールソーシャルワーカーの配置 等)

方針2 地域コミュニティの活用

「自らのまちは自らの手で」という意識のもと、郷土愛に満ち溢れた「人づくり・地域づくり」を推進し、地域と一体となってこどもの成長を支えます。

施策1 地域の学習資源を活かした教育活動の推進

現在進めている主な事業

- ジュビロ磐田ホームゲーム小学生一斉観戦(H23~)
- 静岡ブルーレヴズホームゲーム中学生一斉観戦(R5~)

施策2 こども・若者を健やかに育む地域づくり

現在進めている主な事業

- 放課後児童クラブの待機児童解消に向けた取組
- 「SPO☆CUL IWATA」の実施

方針3 学びの場や環境の整備

良質な言葉に多く巡り合い、その言葉を育みながら豊かな人生が送れるよう、市民が活用しやすい「学びの場や環境」の整備を推進します。

施策1 学校(園)環境の充実

現在進めている主な事業

- 小中学校の施設整備(屋上防水改修・トイレ改修・体育館へのエアコン設置)

施策2 就学のための経済的支援

現在進めている主な事業

- 就学援助 ●特別支援就学奨励 ●私立幼稚園運営費補助

施策3 図書館サービスの向上(自治市民部)

現在進めている主な事業

- 図書館におけるDXの推進 ●「図書館フェスティバル」の実施
- 電子書籍サービスの充実(小中学校との利用連携の推進)

施策4 歴史遺産の整備・活用(スポーツ文化観光部)

現在進めている主な事業

- 遠江国分寺跡(国の特別史跡)の整備
- 開発行為に伴う遺跡の発掘調査及び整理作業
- 歴史文書館企画展、古文書ボランティアの古文書解説作業
- 学校出前講座(狂言・落語等を小学校などで鑑賞する講座)

施策5 生涯学習・スポーツ・文化芸術活動の環境整備(スポーツ文化観光部)

現在進めている主な事業

- 新たな展示室のオープン

令和8年度の主な取組

小中一貫教育とコミュニティ・スクールのさらなる充実

小中一貫教育・コミュニティ・スクールのさらなる深化を図ります。私たちが目指す「地域とともにある学校づくり」「学校を核とした地域づくり」には、「熟議」「協働」「共創」が必要です。地域の皆さんの考えを学校運営に生かすとともに、地域づくりにつながるよう努めていきます。



はまぼう学府小中一体校の基本構想策定

福田地区地域づくり協議会連絡会及び各地域づくり協議会から、はまぼう学府(福田中学校区)の一体校整備の早期推進について要望書が提出されたことを受け、整備に向けた基本構想と基本計画の策定を地域との共創により進めていきます。



SPO☆CUL IWATA(部活動地域展開)

地域の皆様との共創により中学校部活動に代わる地域クラブ活動「SPO☆CUL IWATA」を実施し、生徒一人ひとりのニーズに応じた活動を展開していきます。令和8年9月から土・日・祝日の部活動を地域クラブ活動で実施していきます。



探究的な学びの推進

こども自らが課題を設定し、解決に向けて情報を収集・整理・分析したり、周囲の人と意見交換・協働したりしながら進めていく学習活動のことです。探究的な学びでは、生徒の思考力や判断力、表現力などの育成を目的としています。



外国にルーツを持つこどもたちへの支援

外国人児童生徒の日本語習得を図るとともに、日本での学校生活への適応を促進し、外国人児童生徒一人ひとりの自己実現を支援していきます。



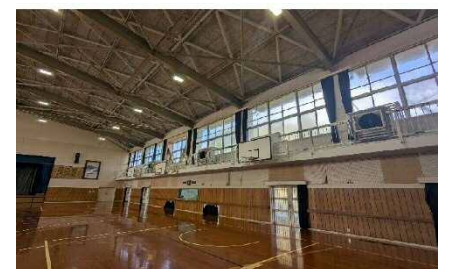
校内教育支援センターを新たに6校開設

不登校傾向にある児童生徒の居場所を整え、個々のニーズに合わせた支援を行うことで、どこもつながりのない児童生徒ゼロを目指します。



小中学校体育館に空調設備を設置

近年の猛暑や酷暑による熱中症から児童生徒を守り、夏場の体育授業や部活動などの学校生活の環境改善を目指し、併せて避難所としての機能強化を図るため、体育館へ空調設備を設置します。



磐田北小学校整備基本構想

磐田北小学校の老朽化率は市内公立小中学校の中で最も高く、見付まちづくり協議会から、学校と交流センターの複合化施設の設置について要望書が提出されたことを受け、整備に向けた調査と基本構想づくりを地域との共創により進めていきます。

